

【小学校・交流に関わる体験活動】

民泊による宿泊体験学習・飯倉交流  
山形県舟形町立富長小学校

学校の概要

学校規模

学級数：6学級

児童数：76名

教職員数：15名

体験活動の観点からみた学校環境

舟形町は、山形県最上地方の最南に位置し、人口約7,000人の自然豊かな町である。兼業農家がほとんどで、比較的耕地面積の広い水稲単作地域である。町を流れる清流小国川は、鮎で知られる。

学区は、JR舟形駅の西地域に位置する富田・長者原・福寿野方面。学校は、月山を眺望でき、杉森に囲まれた丘の上に立つ。美しい自然に恵まれた校地には、「ふれあい小径」や「観察池」があり、学習活動を豊かにしている。

連絡先

〒999-4603

山形県最上郡舟形町富田1945

電話：0233-32-2769

FAX：0233-34-0058

電子メール：tomi-sho@orion.ocn.ne.jp

体験活動の概要

活動のねらい

互いに学び・高め合い、心豊かな人間性を育む。(あたたかい交流)

自然の美しさ・厳しさを体感し、自然のすばらしさに気づかせる。(自然とのふれあい)

地域の良さに気づき、ふるさとを愛する心を育てる。(郷土愛)

主な活動内容・方法(位置付け・期間等)

対象児童 5年と6年の全児童

教育課程への位置付け

総合的な学習の時間と集団宿泊的行事

主たる活動地 学区内地域

期間 2泊3日(夏季・秋季ともに)

自然体験活動としての「川体験」

(集団宿泊的行事)

(現地指導・協力は、5・6年児童の保護者と全職員)

東京体験としての「地域めぐり」

(集団宿泊的行事)

(山形交流実行委員と飯倉小の教員と富長小の引率者による指導)

宿泊

「夏季」は、2泊ともホームステイ

「秋季」は、ホームステイ1泊、宿泊施設に1泊

体制等の工夫

飯倉交流実行委員会の設置、保険への加入

活動の成果等

総合的な学習の時間に位置づけ取り組んだため、児童の主体的な学びの場となった。

ホームステイを大切に考えてきたため、地域との交流が深められた。

## 1 活動に関する学校の全体計画

### (1) 活動のねらい

#### ア あたたかい交流

互いに学び・高め合い，心豊かな人間性を育む。

#### イ 自然とのふれあい

自然の美しさ・厳しさを体感し，自然のすばらしさに気付かせる。

#### ウ 郷土愛

地域の良さに気付き，ふるさとを愛する心を育てる。

#### ・ 「舟形町児童交流学習事業」の目的

様々な体験や経験等の学習を通して，社会に対応する「自立心」と「広い視野」を持つ児童の育成を図り，人と人との関わりの中で，心の交流を深め，心豊かな人間性を育むことを目的とする。

### (2) 全体の指導計画

#### ア 活動の名称

「飯倉交流」(夏季・秋季)

#### イ 実施学年

5・6年全児童

#### ウ 活動内容

##### (ア) 飯倉交流(夏季) 「出会い・体験・感動の集い」

川遊び，筏下り，鮎つかみ，木工クラフト，ウォークラリー，ホームステイ等

##### (イ) 飯倉交流(秋季) 「再会・友情・東京体験」

地域めぐり(班別行動)，東京タワー，テーマパーク，ホームステイ等

#### エ 教育課程への位置付け

(ア) 教育課程内の体験活動として位置付けており，7月下旬の土・日・月の3日間と11月上旬の水・木・金(来年度は木・金・土)の3日間の集団宿泊的行事である。

(イ) 活動内容の位置付けは，総合的な学習の時間と特別活動の学校行事にしている。

#### オ 実施時期(日数や時間数)

(ア) 日数は，飯倉交流として，夏季は，7月22日・23日・24日，そして，秋季は，11月8日・9日・10日で，いずれも3日間である。

(イ) 時間数については，学校行事25時間のほか，一人ひとりの課題設定やそれに基づく計画と準備の時間や活動のまとめと反省の時間について，総合的な学習の時間で15時間実施している。

#### カ 活動場所

山形県最上郡舟形町富長学区内(5・6年児童の保護者宅)にホームステイし，学区内での活動となる。

#### キ 継続の状況等

事前に，川体験に関しては，指導者の教諭と保護者とで下見体験を行い，安全を確認する。また，木工クラフトに関しては，児童の活動リーダーが地元の指導者を訪ね事前学習を行う。

事後に関しては、各自やグループで、新聞や文集、ビデオ製作等と、活動に応じてまとめる。また、集会や昼の放送を通して、全校に交流学習を報告し、下級生の興味関心を高める。次回の交流を充実させるためにも、飯倉交流拡大実行委員会をもち、活動の反省と課題を明確にし、次回へ引き継ぐ。

## 2 活動の実際

### (1) 事前指導

#### ア 「自然体験・東京体験」についての学習

本校の飯倉交流の中心的な活動は、自然体験（夏季交流）と東京体験（秋季交流）である。そこで、交流学習が行われる7月と11月に向け、総合的な学習の時間の中で、体験活動について一人一人が課題をつくり、あらかじめ調べ学習をすることにより、児童の意欲付けを図り、6日間（夏季・秋季）の交流学習の充実を目指した。

#### イ 「人・地域との交流」についての学習

ホームステイに関しては、最近の社会事情等もあり、いくつかの課題を抱えている。そこで、総合的な学習の時間の中に、この必要性を児童と保護者で真剣に討論する場を設けたところ、一人一人がこの交流の意義を確かめ、温かく迎える準備を整えることができた。

#### ウ 「地域めぐり」についての学習

「地域めぐり」に関しては、飯倉小の児童が富長小の児童に体験してほしい学区内地域を紹介する活動である。そこで、本校では一人一人の興味関心に応じた課題に基づくグループを構成し、観光パンフレット、図書室の資料、インターネット等で調べ学習をした。飯倉小のグループとは、手紙やメール、ビデオ等を通して情報を共有し、東京への大きな期待感と喜びを持って出発することができた。

#### 【学習の流れ】

月	4月	5月	6月	7月
学習内容	夏季交流を考えよう（総合） 温かくむかえよう「ホームステイ」(総合) 自然と遊ぼう「川体験」(総合) 思いでをつくろう「木工クラフト」(総合) 【夏季交流】(宿泊行事)			
月	8月9月	10月	11月	12月
学習内容	秋季交流を考えよう（総合） 調べよう「地域めぐり」(総合) 楽しく遊ぼう「テーマパーク」(総合) 【秋季交流】(宿泊行事) 伝えよう「飯倉交流」(総合)			

(2) 活動の展開

ア 活動の場や施設

飯倉小学校の5・6年児童は、富田・長者原・福寿野の3つの地区に別かれ、本校の児童5・6年の保護者宅に1～2名の割合でホームステイする。なお、ホームステイ先の児童の保護者が、ホームステイの児童の親代わりとなり、活動を見守る。毎日の活動は、ホームステイ先から活動場所への移動となる。活動は、学区内とし、川体験は、学区を流れる小国川で、木工クラフトは、学校の「ふれあい小径」で行った。

イ 活動プログラム(概略)

夏 季 交 流			秋 季 交 流		
1日目	2日目	3日目	1日目	2日目	3日目
出合いの集い ・自己紹介 ・歓迎の合唱 ・若鮎太鼓 ・富長ウオー クラリー ・ホームステ イの紹介 (5・6年保 護者) 夕食 ・バーベキュ ー(地域ごと)	ホームステイ ・朝食 川体験 ・鮎つかみ ・川泳ぎ ・筏下り 昼食 ・スイカ割り ・芋煮会 ・川遊び ・筏下り ホームステイ 夕食(各家庭)	ホームステイ ・朝食 木工クラフト 別れの集い ・校歌交換 ・合唱 ・再会の約束	マーチング バンド 歓迎式 ・校歌交換 ・合唱・合奏 ・クイズ ・歓迎の言葉 ホームステイ ・夕食	ホームステイ ・朝食 テーマパーク ・班別行動 昼食 ・班別行動 ホテル ・夕食	ホテル ・朝食 歓送式 ・別れの言葉 ・マーチング バンド ・合唱 地域めぐり 東京タワー ・展望台より さよなら

ウ 指導者・協力者

飯倉交流の夏季交流に関しては、全職員体制で児童の指導に当たり、5・6年児童の保護者全員が、全期間児童の活動を支援する。また、ホームステイを取り入れているため、保健安全面においては、事前に相手校(飯倉小学校)との連携を図りながらも、保護者(富長小PTAと飯倉小PTA)間の連携を密にし、児童の健康と安全に配慮している。また、緊急時を想定し、町教育委員会や近隣病院との緊急時の連絡体制を整え活動に入る。体験学習に関しては、活動の内容に応じ、地元の指導者を要請し、楽しく体験できるよう配慮している。

エ 児童の活動の状況(一部を抜粋)

今年度から、これまでの集団宿泊の行事に総合的な学習の時間を関連付け、子どもたちが自ら考え活動することを大切に、「子どもを主役に、子どもを全面的に」ということで事業を進めている。交流は、夏季交流と秋季交流とがあり、「夏季交流」は、「迎える立場」となり、「秋季交流」は、「出向く立場」となる。

【夏季交流】(出合い・体験・感動の集い)

「自然体験活動」について

朝、児童は、各ホームステイ先から小国川の川辺に集合する。小国川は、日本三大急流

の一つである最上川の支流で、鮎で知られる。

「夏季交流」のメインは、都会ではなかなか体験できない「川体験」であり、子どもたちは、一番の楽しみとしている。そこには、「川遊び」や「筏下り」、そして、舟形町の名産「鮎のつかみ取り」と、川辺での「スイカ割り」等の活動があり、先生方並びに保護者の方の指導・協力のもと、子どもたちは、豊かな自然を満喫し、夏を楽しむ。また、最



終日には、地域にある「ブナの実塾」から先生を招き、学校の「ふれあい小径」にて「木工クラフトづくり」に取り組む。子どもたちは、木片を思い思いに細工する。なお、飯倉小の子どもたちは、自分の作品を「交流の思い出」として持ち帰る。

「人・地域との交流」について

毎日の活動が終わると、飯倉小学校の児童は、各々ホームステイとなる。各々ホームステイ先では、本校の児童と一緒に食事の手伝いや衣類の洗濯等、また、夜には家族そろっての団楽を楽しむ。中には、畑の体験や町巡りもあり、各家庭に応じて様々な楽しみが準備され、子どもたちは地域の温かい心にふれる。なお、初日の夜は、地域でバーベキューが行われ、地域の人との交流を深める。

「集い・こころの交流」について

子どもたちの心を結ぶ「集い」は、「出会いの集い」と「別れの集い」がある。いずれの「集い」にも5・6年児童の保護者全員が参加する。「集い」の中で、合唱やクイズ、地域の伝統文化である富長若鮎太鼓の披露があり、児童の企画による楽しい集いである。そして、温かく結ばれた心を互いに交流し、「秋季交流」を約束する。

【秋季交流】(再会・友情・東京体験)

11月には、たくさんの思い出を持って飯倉小学校との「秋季交流」となる。今度は、東京を学ぶことになる。テーマパークや地域めぐりは、班別活動で、事前学習を生かしながら、また、児童自ら決めた活動ルールのもと、楽しい体験学習となる。なお、山形交流実行委員の方と飯倉小学校の教員が指導に当たっている。最後に、東京タワーの展望台からのお別れである。飯倉小学校の児童は、校舎の屋上に「さよなら」を描き、本校の児童は展望台からその心を知り、感動的な別れとなる。

このように、飯倉交流での感動体験が確実に子どもの心を豊かにし、自然や環境が異なることを体で感じるにより、互いの良さと自分の地域の良さを見つめる機会ともなっている。また、メールや手紙での事前の子どもたちの交流が、本番の交流を充実させる。なお、夏季交流は、富長小の児童が中心となって企画し、秋季交流は、飯倉小の児童が中心となり企画している。

### (3) 事後の指導

飯倉交流(夏季・秋季)後、総合的な学習の時間の中で、ホームステイ先のお家の方へのお礼の手紙はもちろん、ビデオ作成や文集づくりに取り組む。そして、児童は、体験の思いを互いに交流する。

## 3 体験活動のための体制

(1) 学校と本町の教育委員会・他機関との連携

ア 組織

地域の協力を得て、「飯倉交流実行委員会」を設置し、舟形町教育委員会等の支援を受けて交流活動を実施している。

イ 予算

昭和48年から、東京都港区立飯倉小学校との交流事業が開始された。当初は、舟形町の小学校4校が交流し合っていたが、平成元年より各校が交流校を持ち、飯倉小学校とは、隣接する堀内小学校との隔年事業となっている。交流事業にかかわる諸経費（活動費・交通費等）は、「舟形町児童交流学習事業」として、町教育委員会で予算化されている。

ウ 緊急時の連絡体制

緊急時には、富長小学校長及び飯倉小学校長に至急連絡し、両校長を中心に、舟形町、港区の教育委員会や飯倉交流実行委員会、学校教職員や保護者、地域の医療機関と連携して対応することとしている。

4 成果

(1) 「児童主体」を掲げ、総合的な学習の時間の中で事前・事後の学習を行ったため、児童の主体的な学びとなり、交流学习が充実した。また、本校児童と交流校（飯倉小）の児童とが互いに活動を考える中で友情を育み、楽しい活動となった。

(2) ホームステイの中で、家族を含めた児童のふれあいが、良い思い出づくりとなっている。

5 今後の取組の方向

交流学习は、町全体で推進している事業でもあり、来年度以降も発展・充実させていくこととしている。また、総合的な学習の時間に位置付け、児童が自ら考え取り組める活動となるよう保護者の支援体制をより充実させたい。そして、地域の特色を生かし、地域の文化を互いに感じられるような体験とさせたい。

【本事例活用に当たっての留意点】

本事例は、山形県の小学校と東京都の小学校との相互交流体験活動である。夏には、東京の小学生が舟形町を訪ね、富長小学校の保護者の家にホームステイしながら、共に川遊びや木工クラフトなどの自然体験活動を行う。これを受けて、秋には、同校の5・6年生が東京港区の飯倉小学校を訪ね、新たな交流を体験する。こうした体験は、保護者やPTA、地域の交流も含む広いものであり、子どもの生活体験を広げる取組として貴重である。

その際、異なる生活環境や文化に触れるだけでなく、本事例にもあるように、その準備や実施に児童の力を発揮させることは、自分自身や故郷を改めて見直す大切な機会となるだろう。また、事後のまとめや他の学習への発展など、児童の学習を広げる様々な工夫もさらに考えられる。

なお、こうした広域的な交流事業では、それぞれの学校と保護者、そして地域の人々や行政機関等の協力が重要なことに十分留意する必要がある。